震灾专刊　震災特集

来自东北中国归国者支援・交流中心的消息

東北中国帰国者支援・交流センターからのお知らせ

平成 23 年 3 月 11 日下午 2 时 46 分，发生了以三陆海域为震源、烈度为 7、震级为 9 级的东日本大地震。东北中心的所在地仙台市，供电、供水、煤气供应等生命线因此停顿，公交车及地铁等公共交通机构也陷入全面瘫痪状态。特别是沿海地区，遭到了大地震引发的特大海啸之毁灭性打击，始料不及的空前灾难，就这样发生了。（接下页）

平成23年3月11日午後2時46分頃，三陸沖を震源とする震度7，マグニチュード9を記録する東日本大震災が発生しました。東北センターがある仙台市では電気，水道，ガスのライフラインやバスや地下鉄の公共交通機関の全ての機能が失われ，特に沿岸部は地震発生後の津波により壊滅的な被害を受け，誰もが予想しなかった未曾有の大災害となりました。（次頁に続く）

（接前页）好像被谁推摇身体般的强烈地震持续了近 3 分钟，其间共发生了四次巨大的震动，根据以往的经验，觉得“地震差不多该停了”的时候，接下来的，确实更加剧烈的摇晃。此间不安和恐惧交相袭来，因此，人们所感觉到的晃动时间，要远远超出实际震动所持续的时间。

地震发生的当天，在东北中心 5 楼的教室里，共有 8 名归国者在参加交流活动的教室里练习太极拳，震感停止后，2 名职员通过楼梯跑到楼上的教室，连同太极拳讲师一道儿，将 8 名归国者引到中心所在大楼的停车场避难。之后，待余震稍稍稳定一些后，8 名归国者才回家。只是当时公交车及地铁等交通设施已经陷入瘫痪状态，平时总是坐公交车来中心的归国者，只能徒步回家。事后我们才知道，那一天也有的人因为走的时间太长，以至腿脚疼不得不去了医院。震灾发生后的路面，有些地段塌陷了；有些地段出现了地盘下沉；还有一些路面上散落着被震碎的商业街墙面材料及碎玻璃片，情况十分危险。

由于停电，人们为了购买水、食品及干电池等日用品，在没有亮光的昏暗的便利店及超市门口前面排起了长龙，而所有商品在当天傍晚便一售而空，还有一些店铺不得不闭店，或是因为地震而严重受损，以至无法开门营业。这让许多人感觉到平时再理所当然不过的“吃饭”，原来是一件多么不容易的事情啊。此时罹患糖尿病及肾病、日常生活中需要进行饮食管理的人，面临着十分严峻的环境，有的人因此病情加重而不得不住院治疗。同时，由于城市生命线完全停滞，众多人靠着蜡烛或手电筒的微弱亮光，在没有暖气的寒冷避难所或家

（前頁より）揺さぶられるような強い地震は約3分間の間に4回もの大きな揺れを起こし，今までの経験ではもう治まるであろうと思ったところにまた大きな揺れが襲って来るなど，不安と恐怖が重なり合い実際揺れている時間よりも途轍もなく長い時間に感じられました。

当日は5階の教室で8人の帰国者が交流事業の太極拳の教室に参加していましたが，地震の揺れが治まってから職員2人が階段で教室まで駆け上がり，講師の先生と一緒に3人で帰国者全員をセンター入居ビル前の駐車場に避難させました。その後，余震もやや落ち着いて来たことから帰宅していただくことにしましたが，当日はもう既にバスや地下鉄の公共交通機関は麻痺状態になっており，いつもはバスを利用してセンターに通って来る人も歩いて自宅に帰ることになりました。後から聞いた話ですが，この時長い時間自宅まで歩いて帰ったことによって足が痛くなり病院に行った方もいらっしゃったようです。地震後の道路は陥没している所や地盤が沈下している所，商店街の壁やガラスが壊れ道路に飛び散っている所等があり，とても危険な状況にありました。

停電で電気の点かない薄暗いコンビニやスーパーには，水や食料品，乾電池などを購入する人で長蛇の列が出来，その日の夕方にはもう商品が無くなってしまい，店を閉じてしまうところや，店舗自体が壊滅的な被害を受け営業出来ないところもありました。普段当たり前に考えていた「食べる」と言うことがこんなにも大変なことなんだということを思い知らされました。糖尿病や腎臓病等で食事管理をして生活している人にとっては，非常に厳しい状況に置かれ、体調を崩し入院された方もいらっしゃいました。ま

中，度过一个个黑暗而不安的夜晚。

但是，即使在这样的混乱中，也没有任何争吵和打斗事件发生。为了购买食品和汽油，很多人在小雪飞舞的寒气中有秩序地排 4 至 5 个小时的长队；红绿灯完全失去了功能，然而人们在十字路口相互礼让，使交通顺畅无阻。日本人在非常时期所表现出来的这种良好的根性和国民素质，受到了世界的广泛称赞，也让我们感受到了人们战胜震灾、重建家园的强劲动力。

本中心将归国者的人身安全放在第一位考虑，因此决定暂时停止日语学习班及交流活动，仅实施商谈业务这一项工作，以为归国者所面临的避难生活提供支援。进入 5 月以后，余震渐渐减少，城市生命线及交通设施也恢复如常，同时，归国者要求重新开始中心业务的呼声也越来越高，于是，在震灾发生即快将到 3 个月时的 6 月，我们重新开始了中心的业务。1 号这一天的首开典礼定在下午进行，可是许多心情急切的归国者，在上午就聚集到了交流沙龙，整个空间都回响着归国者们相互祝福平安的欢声笑语。

本中心经历了东日本大地震这场灾难，并面向居住在受灾情况严重的岩手县、宫城县及福岛县归国者实施了问卷调查，我们期望在语言及生活等方面，有着不同习惯的归国者，能为我们提供各自是如何应对这场大地震、感到什么地方存在问题或课题等信息，以便我们今后的防灾工作，能够做得更好、更到实处。

たライフラインが完全に機能停止してしまったため、多くの方が蝋燭や懐中電灯といった薄暗い光の中で，暖房もない寒い避難所や自宅の中で不安に震える夜を過ごすことになりました。

しかしこの様な大混乱の中でも大きな争い事も無く，多くの方々が秩序正しく食料品やガソリンを求めて 4 時間も 5 時間も小雪が舞う寒空に立ち並び，交通信号も機能しない交差点では，お互いに行き先を譲り合って交通がスムーズに流れる等，非常時に見せた日本人の底力国民性の高さは諸外国からも絶賛され、復興へと立ち向かう力強い息吹を感じました。

当センターでは帰国者の安全な通所を最優先に考え，日本語教室と交流事業はお休みにし，帰国者が直面する避難生活へのサポートとして相談事業のみを行って来ましたが，5 月に入り余震の回数も少なくなり，ライフラインや公共交通機関も通常の状態に戻り，また帰国者の方々からはセンターの再開を待ち望む声が大きくなり，震災から約 3 カ月が過ぎようとする 6 月にセンターを再開することになりました。1 日の始業式には午後からの開始にも関わらず，交流サロンにはこの日が来ることを心待ちにしていた帰国者の方々が午前中の早い時間から集まり出し，お互いの無事を喜び合う歓喜の声が響き渡っていました。

当センターでは東日本大震災を経験され，特に被害の大きかった岩手県，宮城県，福島県にお住まいの帰国者の方々にアンケート調査を行い，言葉の壁や生活習慣の異なる帰国者の方々が，今回の震災に直面してどう対処したのか，そこにはどのような問題点や課題があるのか導き出し，今後の防災対策の一助としたいと考えています。